

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	地域活動支援センターⅢ型
施設の名称	ぴあ・ふれんず
施設の所在地	長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土(祝日、年末年始除く)9:30～17:00 実開所日数:293日※月曜は9:30～15:00 15:00～ミーティング
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理責任者 1名 主任・支援員 1名 支援員 1名
利用対象者	障がい限定なしで受け入れ
利用者の状況	登録:147名 (延利用総人数3808名)
送迎	R3.10～身体の方を優先に開始(約3 ^{km} 範囲内) ※相談に応じる
車輛の利用状況	クリッパー(軽車輛:H25.1登録)※車いす1台乗車可
利用の料金・費用	無料(活動内容により実費負担) 送迎1往復100円
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ①基礎的事業…憩い・交流の場提供(フロア、交流会、映画鑑賞、料理、手話歌、健康体操など)・学びの活動(パソコン学習・講座の実施)・創作活動(手工芸、書道、絵手紙)・外出・社会交流(機関誌発行、バス外出)・その他(外部講座参加、外部団体への場所提供)(視覚障害者支援他) ②機能強化事業…研修生、体験生受け入れ・ボランティア受け入れ・当事者ボランティア受け入れ・相談、精神的サポート・就労支援(勉強会等)・その他(研修、講演の情報提供) ・1日の流れ <ul style="list-style-type: none"> 9:30～12:00と13:00～15:00企画を含む日中活動、15:00～17:00フリー※日中活動は個人で決める。 ・開館日および開館時間 <ul style="list-style-type: none"> 祝祭日を除く月曜日～土曜日(企画により閉館あり) 月曜日【9:30～15:00(15:00～職員ミーティング) 火曜日～土曜日9:30～17:00】 ・歳末たすけあい募金特別配分金申請 ・レクリエーション活動等支援事業補助金
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者中心の活動を目標に、障がい限定をせず障害のある方の受け入れを行ってきた。精神障がいの方の利用が多い。新型コロナウイルスによる影響もあり、1日平均15人に満たない日も多いが、福祉関係者のサポート(見学・紹介など)、利用者同士の繋がりで誘い合う事も増え、様々な方が利用してくださり、少しずつ利用人数が安定してきた。利用者の傾向は、女性が多く、10代から80代まで幅広く、年代を超えて交流ができることは喜ばれている。日々の活動は個人で考えて自由に過ごしてもらおうので、人数にはらつきがあるが、芸術鑑賞・手芸関係は大勢の方が参加し、とても楽しみにしてもらっている。利用者からの持ち込み企画(リクエスト企画)などもあった。リピート利用に繋がっている。 ・事業所の雰囲気が静かで過ごしやすいため、他の事業所との併用をし使い分ける方も多い。利用の皆さんは、自分のペースを守り、周囲に迷惑をかけないように活動しているため、トラブルが起きることもなかった。 ・今年度、レクリエーション活動に力を入れ、「礼儀作法の講座、音楽鑑賞、スポーツ、DVD鑑賞など」幅広い活動を計画し、利用者以外(家族・友人など)大勢の方の参加を頂いた。また、家以外の場所としての時間をもち、生活リズム作りの1歩として過ごす方も多く、毎日利用する居場所として定着しつつあると感じた。 ・活動の場の提供とできたが、社会的な経験や自立に向けての体験としては、もう少し多くの提案ができるようになった。
課題	<p>支地域活動支援センターとしての意味、事業所の特色などを誰にもわかるように、わかりやすいパンフレットや動画の作成を検討。まだ地活の存在や支援内容を知らない方、地域の方々に『知ってもらおう』を目指して、事業所情報の発信を行っていく必要がある。また、支援者側の障害理解の学習、支援方法のスキルアップのため、支援の中を広げるため、各種勉強会の参加し、地域団体、市、法人本部など関係機関と連携をとり、支援体制を整えていく事が求められる。事業所では、当事者の想い、支援への希望を聞き、一緒に考え情報や選択肢を提供していく。一人一人が具体的な目標を掲げた「個別支援計画」をできるだけ作成し、1つ1つ結果を積み重ねられるような場になる。</p>
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ☆レクリエーション活動を実施 ※月1回を目指す <ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし、自立生活を目指す皆さんが必要とする内容を集約し、楽しく学べる企画・交流する機会を計画実施。外部からの講師を招待し広く周知し、多くの人に参加してもらう。 ☆仲間同士で交流・情報交換・情報発信できる場作り、お手伝い※機関誌の記事作りにも参加呼びかけ <ul style="list-style-type: none"> 来所することの難しい方のために、場所を移して実施できる機会を設ける※出張地活 ☆視覚障がい者支援の会に協力する※現状を広げる <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの養成とボランティア団体のネットワークを作り(実現できなかった)、定期的に情報交換・場所提供し支援の基礎を作る。※コロナ状況を見ながら進める ☆地域活動支援センター同士の交流を呼びかける※福祉ねっと(かつどう部会)への参加を継続 <ul style="list-style-type: none"> ●個別支援計画を利用者と作成し、利用の目的・方向を一緒に考えていく。 ●地域団体、公民館、関係機関への通信の配布・地域行事への参加 ●ホームページへ通信を掲載し多くの方へ活動内容を発信していく。

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	特定・一般・障害児相談支援事業 障害支援区分認定調査
施設の名称	まい・すてっぷ相談支援室
施設の所在地	長野市高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 8:30～17:30 (年末年始を除く)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長 1名 相談支援専門員 3名
利用対象者	身体障害・知的障害・精神障害いずれかの手帳を有する0歳～65歳の障害者(児) 手帳を有しないがサービス利用対象者と認める証明のある障害者(児)
利用者の状況	障害者(児)計画相談 441 件
送迎	なし
車輛の利用状況	家庭訪問・事業所訪問・会議出席等に公用車1台(リース) 公用車登録の自家用車4台
利用の料金・費用	法定代理受領による (提供地域を超える場合は交通費(定額)負担ある)
具体的な事業内容	事業目的 障害者(児)の生活に係る課題や問題の相談に対し、その人らしく生活をしていくための支援を行う。 計画相談 ・身体障害、知的障害、精神障害の計画相談。(プランの作成・サービス調整等必要な支援) ・障害 プランから介護保険プランへの移行支援。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・おたすけ・ぴあっと(相談)と統合したことで、相談支援専門員の人数が増えお互いに切磋琢磨できる環境ができ、受け入れ幅が広がったこと、情報共有やケース検討の機会を増やし充実した相談支援体制が整った。 ・利用者に寄り添い、柔軟性のある計画相談が行えたことで給付目標額を達成した。 ・新規計画相談の受け入れを積極的に行った。(年間新規受け入れ数63件) ・各相談支援専門員が、担当する個々のケースの振り返りと支援方法の共有をし、個別プランの評価及びその改善を図る姿勢を持ち質の向上のための努力ができています。 ・真摯に業務に取り組むことにより、長野市障害福祉課及び南北相談支援センターからの信頼を得られている。 ・ふくしネットの連絡会や研修会、スキルアップ研修等の勉強会に積極的に参加したり、他事業所の見学を定期的に行い知識と情報力を向上し業務に反映させた。 ・事業所のみならず法人全体のサービスの質の向上のための提案と工夫をしている。 ・感染症のまん延状況を注視しつつ、訪問や会議の持ち方、業務遂行の仕方を配慮し感染拡大防止に努めた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用希望者が増加している中、個々の相談支援専門員の担当ケース数は多い。ニーズに対して十分な対応ができるよう、更に盤石な体制を整えたい。 ・山村地域居住者の支援、ひきこもりや8050社会問題等の支援を必要とする事例は増加しているが、利用できる資源は少なく支援困難事例となっている。計画調整のために、多職種や地域との連携能力の向上や、社会資源の開拓に努める必要がある。 ・障害福祉サービスが社会に浸透してきたことにより、その効果について制度以上の期待がある。そのケースに合わせた正しい説明をする能力が求められている。
↓	
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・早期にその人のニーズをくみ取り、多方向からの見方ができ、豊富な提案や相談ができる技術を身につける。 ・相談援助の知識と能力の向上のために、研修等に積極的に参加し専門性を高める。 ・医療、保健、福祉その他関係機関と円滑な連携体制がとれるよう関係性を構築する。 ・相談支援専門員各々が、自己のプランの振り返りができ、また、相互検討ができる体制を維持し支援力を拡充する。 ・24時間の連絡体制と、困難事例の対応や事業所内での検討会を継続して行い、事業所としての信頼を維持し求められる役割を果たす。

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	長野市障害者相談支援事業(市委託) ※委託期間:令和3年度～令和5年度まで、契約は1年更新
施設の名称	長野市北部障害者相談支援センター・長野市南部障害者相談支援センター
施設の所在地	【北部】長野市大字南長野新田町1485-1 長野市もんぜんぶら座6階 【南部】長野市川中島町今井1387-5ハーモニー桃の郷3階

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金(祝日、12/29～1/3を除く) 8:30～17:15
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	【北部】所長: 1名(法人業務と兼務) 専門員: 1名(出向) 【南部】専門員: 1名(出向)
利用対象者	長野市内に住む障害児者・家族、関係機関等
利用者の状況	○各センターの相談対応件数については、別添資料の通り ○長野市障害ふくしネットに関わる関係者は、障害当事者、障害者団体、障害福祉事業所、保健、医療、教育、雇用関係者、行政など
送迎	(無) 有()
車輛の利用状況	【北部】公用車登録の自家用車1台を利用 【南部】公用車1台
利用の料金・費用	無料
具体的な事業内容	長野市障害者相談支援業務委託仕様書」に基づき以下の事業に取り組む (1)障害者総合支援法第77条に掲げる事業 (福祉サービスの利用援助/社会資源を活用するための支援/社会生活力を高めるための支援/権利擁護のために必要な支援/専門機関の紹介/地域の相談支援体制の強化の取組) (ア)地域の相談支援事業者に対するバックアップ (イ)支援困難事例の対応・調整 (ウ)地域の相談支援事業者の人材育成 (エ)地域の相談機関との連携強化 (オ)学校や企業等に赴き、各種情報の収集・提供や事前相談・助言 (2)長野市障害ふくしネットへの参画(南部障害者相談支援センターにおいては、事務局の一部業務委託も受けている) →ふくしネットに関わる会議等への参加実績は、別添のとおり
評価	【個別相談】R3年度より、市内に点在していた相談窓口が、北部・南部センターに拠点化されたことでのメリットがいくつかあった。 ○相談窓口がわかりやすくなった:市民や関係機関からもわかりやすくなったためか、相談件数が増加している。 ○相談員が複数体制になった:複数の相談員がいることで、お互いに学び成長していけること、相談員一人で対応していた時に比べ、センターとして相談を受け付けることで、より業務の中立公平性があり、相談員による格差を少なくするべく業務の標準化を進めた。 【ふくしネットや地域づくり】 長野市障害者相談支援事業として委託されている内容(上記、具体的な事業内容)の中でも、取り組みが不十分な点があった。具体的には、(1)-(ア)(エ)(オ)及び(2)についての取り組みは、次年度の課題となっている。R3年度より、長野市障害ふくしネット運営及び事務局の一部が南部障害者相談支援センターの業務となったが、その取り組みの必要性が市や相談員、管理者の中でうまく共有されずに、主担当だけに業務が偏ってしまった。
課題	●委託相談の役割、業務の明確化が必要 ●個別相談対応が中心となり、長野市障害ふくしネットへの参画、運営への協力、人材育成、相談支援専門員のバックアップなどへの取り組みが不十分だった。 ●北部・南部センターでの情報共有のあり方や、業務への取り組みの温度差
次年度への具体的な取り組み内容	長野市北部・南部障害者相談支援センターとしての、R4年度の重点目標としては、次のとおり。 1 業務の標準化:相談員個々、南北センターでの標準化。また記録や個別ケースへの関わり方も共有していく。 2 委託相談の役割の明確化:継続ケースの整理分析を進め、それを通じて委託相談の役割を検討する。 3 ふくしネットへの関わり強化:部会、委員会の運営のフォローを強化する。地域課題の抽出や課題の共有。 4 指定相談支援事業所のバックアップ:相談支援事業所への巡回を行い、顔のみえる関係づくり。課題別、小さなグループでの勉強会を開催し、共に学び育っていく。

(報告様式)

障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況 (R3)

センター名： 長野市北部障害者相談支援センター

1 障がい種別登録者数 (実人数)

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
84	107	402	71	98	762
視覚障がい者				高次脳障がい	
15				11	
聴覚障がい者					
3					

2 障がい種別相談延べ件数

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
643	2,111	4,514	705	107	8,080

3 支援方法別相談延べ件数

訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議 (ケア会議)	その他	合計
705	448	2,745	154	315	3,713	8,080

4 相談の内容(複数回答あり)

相談内容	延べ件数	割合
福祉サービスの利用	4,720	19.89%
社会資源の活用	4,720	19.89%
障害や病状の理解	2,103	8.86%
健康・医療	2,069	8.72%
不安解消・情緒安定	1,974	8.32%
保育・教育	230	0.97%
家族関係・人間関係	1,597	6.73%
家計・経済	1,408	5.93%
生活技術	1,320	5.56%
就労	1,762	7.43%
社会参加	655	2.76%
余暇活動	655	2.76%
権利擁護	95	0.40%
その他	420	1.77%
合計	23,728	100.00%

※ 把握している範囲で結構です。

(報告様式)

障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況 (R3)

センター名： 長野市南部障害者相談支援センター

1 障がい種別登録者数 (実人数)

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
59	88	207	54	45	453
視覚障がい者				高次脳障がい	
3				2	
聴覚障がい者					
2					

2 障がい種別相談延べ件数

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
476	1,268	3,381	564	86	5,775

3 支援方法別相談延べ件数

訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議 (ケア会議)	その他	合計
260	401	3,639	61	202	1,212	5,775

4 相談の内容(複数回答あり)

相談内容	延べ件数	割合
福祉サービスの利用(社会資源の活用)	3,289	47.97%
社会資源の活用	上記に含む	
障害や病状の理解	616	8.98%
健康・医療	567	8.27%
不安解消・情緒安定	276	4.03%
保育・教育	109	1.59%
家族関係・人間関係	351	5.12%
家計・経済	238	3.47%
生活技術	645	9.41%
就労	277	4.04%
社会参加(余暇活動)	216	3.15%
余暇活動	上記に含む	
権利擁護	12	0.18%
その他	261	3.81%
合計	6,857	100.00%

※ 把握している範囲で結構です。

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	生活介護
施設の名称	ぴあっと
施設の所在地	長野市箱清水2丁目11-2

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～土 9:00～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	<p> 所長： 1名 サービス管理責任者： 1名 主任： 1名 生活支援員： 7名 掃除員・生活支援員補助： 1名 看護師： 2名 調理員： 2名 </p>
利用対象者	身体、知的、精神
利用者の状況	身体25名、知的6名、精神12名 合計43名
送迎	有、他マイカー1名
車輛の利用状況	送迎用： キャラバン、アトレー、ノア2台、ステップワゴン
利用の料金・費用	サービスに要した費用の原則1割、または利用者本人等の負担能力に応じ、市町村が定めた額プラス実費(昼食代350円とお茶代50円)
具体的な事業内容	<p>生活介護事業・・・入浴、食事、排せつ介助の支援、日中活動、行事の提供</p> <p>《日中活動では》</p> <p>体操、体重測定、歩行練習、PC、カラオケ、塗り絵、デッサン、ペーパークラフト、編み物、裁縫、キーホルダー作り</p> <p>《日中外出、行事》</p> <p>花見・県立美術館・しまむら買い物・アベール・ユニクロ買い物・長門屋かき氷・直売所買い物・農業まつり・秋祭り・運動会・新町買い物・まめトラ出前ラーメン・まつおかとオンライン体操</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・蔓延防止等重点措置が適用され外出自粛を余儀なくされてしまう。分散利用も試みながら営業するが感染の怖さから利用を控える方も多かった。 ・利用者同士の距離を確保し体操や声を出すレクを行う事は難しく中止せざるを得ない状態。出来る活動が個人で取り組める作品に限定されてしまった。 ・ぴあっと、ぴあっと・城山は散歩、外出、身体を動かす事がアピールポイントだが活動出来ずアピールポイントの減少。また、コロナの影響もあり見学も控える傾向があり新規利用に繋がっていない。 ・ぴあっと・まつおかとオンラインを通して活動をする事により、双方の距離感が近く感じて頂けるようになってきている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ではなく、室内活動で利用者様が満足して頂ける活動を提供。 ・新型コロナを鑑み、少人数での外出の提供。 ・ぴあっと・まつおかと合同での活動を行い通所の関りを作る。 ・新型コロナが施設内でクラスターにならないように感染予防対策の徹底。
↓	
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、利用者に定期的に満足度アンケートを取り、傾聴していく。 ・新型コロナ感染予防を行いながら体操を継続して健康づくりに取り組む。 ・送迎時の検温、来所時のアルコール消毒(手・車椅子)、定期的な換気、室内アルコール消毒。 ・一定数の利用者数確保。利用定員数の見直し。給付、加算の見直し。 ・職員が定着して務められる環境作り。また、基本的情報と実技的な介助方法や利用者への接遇の研修を行い職員の育成を行う。

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	生活介護
施設の名称	ぴあっと・まつおか
施設の所在地	長野市松岡1丁目13-11

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金 9:00～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	<p>所長：1名(ぴあっと所長兼務) サービス管理責任者兼主任：1名 生活支援員：5名(うち1名R4.3月退社) 看護師：2名 事務員：1名 運転手：2名(うち1名派遣職員)</p>
利用対象者	身体、知的、精神
利用者の状況	身体27名、知的4名、精神3名 合計34名(内気管切開1名)
送迎	有り
車輛の利用状況	送迎用キャラバン3台、ハイゼット、ノア
利用の料金・費用	サービスに要した費用の原則1割、または利用者本人等の負担能力に応じ、市町村が定めた額プラス 実費(昼食代250円・お茶代50円等)
具体的な事業内容	<p>生活介護事業・・・入浴、食事、排せつ介助の支援、日中活動、行事の提供 ≪日中活動では≫ 体操、体重測定、歩行練習、PC、カラオケ、塗り絵、デッサン、ペーパークラフト、編み物、裁縫、キーホルダー作り、ぴあっととオンライン体操 ≪日中外出、行事≫ 花見・県立美術館・しまむら買い物・直売所買い物・秋祭り・運動会・まめトラ出前ラーメン</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・蔓延防止等重点措置が適用され外出自粛を余儀なくされてしまう。分散利用も試みながら営業するが感染の怖さから利用を控える方も多かった。他施設での濃厚接触者になる方も多く影響してしまった。 ・利用者同士の距離を確保し体操や声を出すレクを行う事は難しく中止せざるを得ない状態。出来る活動が個人で取り組める作品に限定されてしまった。 ・コロナの影響もあり見学を控える傾向があり新規利用に繋がっていかない。 ・ぴあっととオンラインを通して活動をする事により、双方の距離感が近く感じて頂けるようになってきている。 ・職員が報告・連絡・相談が出来るようになってきている。また、統一した支援が出来るようになってきている。新規利用者確保にも意欲的になっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ではなく、室内活動で利用者様が満足して頂ける活動を提供。 ・新型コロナが施設内でクラスターにならないように感染予防対策の徹底。 ・職員の報告、連絡、相談の徹底。 ・土曜日営業の再開。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、利用者に定期的に満足度アンケートを取り、傾聴していく。 ・新型コロナ感染予防を行いながら体操を継続して健康づくりに取り組む。 ・送迎時の検温、来所時のアルコール消毒(手・車椅子)、定期的な換気、室内アルコール消毒。 ・一定数の利用者数確保。利用定員数の見直し。給付、加算の見直し。 ・職員が定着して務められる環境作り。また、基本的情報と実技的な介助方法や利用者への接遇の研修を行い職員の育成を行う。 ・土曜日に出勤できる職員が安定した時点で再開していく。(R4.7月頃を目途)

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労移行支援
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒381-0034 長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 9:30～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者・サービス管理責任者 1名 就労支援員 1名 職業指導員 1名 事務/生活支援員 1名
利用対象者	3障害
利用者の状況	精神 1名、発達 名、身体 2名 新規契約 3名、就職 2名、就労継続支援B型へ移動 1名
送迎	有 (主に身体を対象として)
車輛の利用状況	送迎 日産セレナ1台、トヨタ ノア1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【就職支援】利用者個々の能力に沿った個別支援計画を作成。作業や訓練、面談を通して必要な知識や経験を積み、自信を持って就労に向き合えるよう支援を行う。 パソコンを中心とした訓練では、各種アプリケーションの習得、実践する。 在宅就労を目指す方に、実践的な在宅訓練を取り入れ、在宅勤務に必要なスキル習得を目指す。 就職支援では、ハローワークに同行し、ご本人の希望に合った就職先を探し、履歴書作成のアドバイス、模擬面接を行う。希望する企業には、県の短期トレーニング制度を利用し実習を行う。</p> <p>【実践的な訓練】印刷(大判・名刺・チラシ印刷)、会議録テープ起こし、カッティングシート、データ入力、パンフレット等の作成(一般・行政、法人内からの受注)。菓子商品化受託作業</p> <p>【健康管理支援】新型コロナウイルス感染症などへ注意喚起、健康・精神状態の把握、就労を維持できる健康の保持と生活リズムの安定、社会的マナーの向上を目指し、健康面、精神面併せて支援します。</p> <p>【生活支援】利用者が安定して通えるよう健康、食事面の指導を行った。社会人としての自覚をもち規範意識を持てるよう継続的に支援した。</p>
評価	<p>【就職状況】令和3年度は、マルチロジスティクス、ミールケアへの就職に結びついた。 就労をされた方々は、定期的にフォローを行い、各自の状況に応じて課題の解決を行ってきた。6ヶ月の定着支援経過後も必要な方には定着支援事業へ定着支援を引き継ぎ安定した勤務が行えている。</p>
課題	<p>職員全員が、「障害の程度に関係なく、就職したい、社会に戻りたいという強い気持ちを持つ方には、就職への道は必ず開く」という考え方持ち、就職に向けた意識と自身をつけてもらい、その方が望む就労の形を作り上げる。新しい利用者と呼び込む最良の方法として、就労実績こそが重要であることから、更に各関係機関、企業との連携も強化し、「移行」・「定着」・「B型」と揃った障害者就労を進める事業所「はたらくびあっと」と知ってもらい、利用者の確保し増やすことに繋げる必要がある。 在宅勤務の求人今後も増えることから、在宅就労の実績も各方面へのアピールも行っていく。</p>
次年度への具体的な取り組み内容	<p>在宅就労という時代のニーズをとらえ、より実践的な在宅訓練を積極的に取り入れ、パソコン操作のスキルを上げていく。ハローワークを活用し、利用者の希望、能力、適正にあった就職先を選定し、これまで積み上げてきた就労実績を発信し、はたらくびあっとの持つ強みである「障害者就労を確実に進める事業所」というイメージを、さらに高めるために「徹底的な傾聴、実践に即した支援、職員全員のチーム支援」を職員間で情報共有し、利用者との信頼関係をより強め、支援技術を向上させ、その人が望む就職生活が出来るように支援を行っていく。</p>

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労継続支援B型
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒381-0034 長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 9:30～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者・サービス管理責任者 1名 職業指導員 2名 生活支援員 1名
利用対象者	3障害
利用者の状況	身体 6名、精神 8名、知的 2名 新規契約2名、就労移行から移動1名
送迎	有(主に身体を対象として)
車輛の利用状況	送迎 日産セレナ1台、トヨタ ノア1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【就職支援】利用者個々の能力に沿った個別支援計画を作成。作業や訓練、面談を通して必要な知識や経験を積み、自信を持って就労に向き合えるよう支援を行う。 パソコンを中心とした訓練では、各種アプリケーションの習得、実践する。 在宅就労を目指す方に、実践的な在宅訓練を取り入れ、在宅勤務に必要なスキル習得を目指す。 就職支援では、就職相談会やハローワークに同行し、ご本人の希望に合った就職先を探し、履歴書作成のアドバイス、模擬面接を行う。希望する企業には、県の短期トレーニング制度を利用し実習を行う。</p> <p>【実践的な訓練】印刷(大判・名刺・チラシ・箔印刷)、会議録テープ起こし、カッティングシート、データ入力、年賀状・パンフレット等の作成(一般・行政、法人内からの受注)。菓子商品化受託作業</p> <p>【健康管理支援】新型コロナウイルス感染症などへ注意喚起、健康・精神状態の把握、健康の保持と生活リズムの安定、社会的マナーの向上を目指し、健康面、精神面併せて支援します。</p> <p>【生活支援】利用者が安定して通えるよう健康、食事面の指導を行った。社会人としての自覚をもち規範意識を持てるよう継続的に支援した。</p>
評価	<p>【利用状況】R3年3月の時点で17名の利用。3月までに就労移行からの移動は1名、新規利用者は2名。就職者は、太平ビルサービスに1名が就職した。B型でも就職を望む方の</p> <p>【仕事内容】企業からの商品化受託作業受注し通年で行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で作業月に波があった。新たな受託作業には携わる事の出来る方も増え作業スキルが上がり企業からの評価も得ている。優先調達関係の受注は減少しているが、新規の仕事を確認し工賃を確保していく。</p> <p>合わせて、パソコンでの作業に携わる方も増やしていく。</p> <p>【工賃支払】利用日数の少ない方の工賃額が非常に低い状態である。また利用日数が多い方、仕事に積極的に参加している方には工賃を多くお渡しできているが、全体的には低い状況にある。仕事内容も含めた再考と、一定量の確保が必要となる。</p>
課題	<p>新規の利用者確保が課題である。相談支援事業所や養護学校にもアピールできるような魅力ある事業所とし、利用者を増やせるように、そうするための情報発信を積極的に行っていく。作業種類は増えているが、高度なスキルを求められる仕事もあるため限定されてしまう場合もある。各自のやりがいのある仕事を確保し、モチベーションを高め、安定した利用になるよう支援を続けていく。今後の作業やり方として、切り分けや工程の見直しを、利用者の参加してもらい一人一人が、作業の目的を持ち、全体の過程を把握しながら自主的に取り組んでもらえるようにして、職員は利用者の特性に合わせた適切な支援を行い、仕事への意識を持てるように支援していく。工賃は、県平均工賃に対して依然として低い状況であり工賃を上げる取組みを行う。</p>
次年度への具体的な取組み内容	<p>新規の仕事は、利用者のモチベーションアップにつながり効果が上がっている。新規の民間企業から受注を開拓使も行いながら、他事業所など見学をおこない参考にしながら、はたらくびあっとの特徴を生かし工賃アップを目指していく。関係機関や他事業所との情報交換を行ったり、県庁、市役所を通じた優先調達制度の活用し受注先確保に取り組む。</p> <p>また在宅就労という時代のニーズを捉え、訓練に積極的に取組みパソコン操作のスキルを上げていく。ハローワーク等から引き続き情報収集を行い、就労に必要な技術を磨き、身に付け、積極的に就労に結びつくよう支援を行い続ける。就労の気持ちと、環境が整った時には、就労移行支援へ移し就職へにつなげる。</p>

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労定着支援
施設の名称	はたらくびあっと
施設の所在地	〒381-0034 長野市大字高田1134-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	営業時間 月～金 9:30～16:00
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者・サービス管理責任者 1名 就労定着支援員 1名 就労定着支援員 1名
利用対象者	3障害
利用者の状況	精神 1 名、発達 2 名、身体 1 名
送迎	無
車輛の利用状況	日産セレナ1台、トヨタ ノア1台
利用の料金・費用	障害者総合支援法に定められたとおり
具体的な事業内容	<p>【定着支援】就労移行ならびに、就労継続支援B型より就職し、6ヶ月の定着支援を終了した者に対し、その後3年間の就労定着支援を致します。必要に応じて障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ジョブコーチとも協力し、利用者が安定して就労が継続出来る環境を整え、雇用側と利用者双方の意思疎通を図り定着を支援します。</p> <p>また、定期的な相談を通じ、生活リズムや環境の変化などに伴い生じる生活面の課題を把握し関係機関などと連携して解決に向け、指導・助言など支援を行います。</p> <p>基本方針</p> <p>①【主体性】利用者の主体性を尊重し、円滑なコミュニケーションこそが就労継続にとって大切であることを理解して貰い、職場での環境整備、コミュニケーションの場の提供、手法の訓練を実施します</p> <p>②【生活支援】就労を継続するために必要な健康の保持増進と快適かつ安全な生活ができるように支援します。</p> <p>③【地域福祉】地域の企業に採用されている利用者が、地域・行政・ボランティア等関係各方面との連携がとれるように支援し、相互理解と交流を通して地域福祉の充実に貢献します。</p>
評価	<p>【就職状況】</p> <p>令和3年度は、4名が定着支援を利用しており、支援が入ることで安定した勤務が出来ている。企業側にとっても、事業所との連携によって、様々な課題を解決する役割も担っている。今後も就職後6か月を経過した利用者に、身近な応援者として定着支援を行っていく。</p>
課題	<p>今年度、3年経過し終了する方や、定着支援が無くとも職場や業務に慣れ、安定して勤務することが出来るようになることで利用を終了するケースも出てくるため、利用者の確保が必要になってくる。各関係機関や企業との連携を深めなが、「移行」・「定着」・「B型」と揃った障害者就労を進める事業所「はたらくびあっと」として知ってもらい、利用者を増やすことに繋げることが必要となる。</p>
次年度への具体的な 取り組み内容	<p>①【就労定着率実績の向上】引き続き定着実績100%を目指し、長く安心して就労できるように支援する。</p> <p>②【企業連携】企業側へ求められる合理的配慮の手法を具体的に展開するお手伝いをします</p> <p>③【利用者の確保】安定した就労に繋がるように定着実績を重ね、就労実績をアピールし、相談支援専門員、ハローワークの認知を高めます</p> <p>④【スキルアップ】必要な講習会受講、関係団体との関係を構築します</p> <p>⑤【就労支援との連携】就労移行事業所、就労継続B型事業所の連携を進めます</p>

R3年度 月別平均工賃額 一覧表

はたらくびあっと

	就労移行			B型		
	利用者工賃 合計金額	人数	1人当たり 平均額	利用者工賃 合計金額	人数	1人当たり 平均額
4月	15,714	3	5,238	55,923	17	3,290
5月	14,652	4	3,663	50,264	19	2,645
6月	25,048	5	5,010	67,337	19	3,544
7月	19,755	4	4,939	62,314	22	2,832
8月	20,760	5	4,152	70,464	21	3,355
9月	15,736	4	3,934	54,686	20	2,734
10月	13,167	3	4,389	73,841	21	3,516
11月	12,731	3	4,244	58,328	20	2,916
12月	13,524	3	4,508	61,423	18	3,412
1月	15,684	3	5,228	48,077	18	2,671
2月	11,375	3	3,792	48,338	16	3,021
3月	10,901	3	3,634	50,784	16	3,174
合計	189,047	年間平均額	4,394	701,779	年間平均額	3,093

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	訪問介護事業 居宅介護事業 同行援護 移動支援事業
施設の名称	訪問介護事業所 おたすけ・ぴあっと
施設の所在地	長野市大字高田川端西沖 941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～日曜日 8:30～17:30 (電話により24時間連絡可能)
職員配置 (職名・氏名) 責任者名 (役職)	所長・サービス提供責任者・訪問介護員 1名 サービス提供責任者・訪問介護員 1名 サービス提供責任者・訪問介護員 1名 訪問介護員 4名
利用対象者	居宅介護：身体・知的・精神障害者 訪問介護：65歳以上の要介護者、また40歳～64歳の特定疾患をお持ちの要介護者
利用者の状況	訪問介護：10名 居宅介護：66名 同行援護：22名 移動支援：26名
送迎	無 () 有 ()
車輛の利用状況	公用車 (ミラ2台)
利用の料金・費用	居宅介護：利用者の負担能力に応じ市町村が定めた額 訪問介護：サービス費用の1割・2割・3割負担
具体的な事業内容	①担当者会議、個別支援計画書作成、モニタリング、サービス調整等、利用者が在宅において日常生活を営める事ができるように支援していく。利用者の置かれている環境・状況に応じて身体・生活面の援助・外出時の支援等を適切に行う。利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立った支援を心掛ける。 ②給付・請求書・法定代理受領書作成、発行 ③毎月サービス状況報告書を作成し、ケアマネージャー・ケアプランナーに情報提供、及び虐待が疑われる場合は通報する。④ 営業による新規獲得。
評価	①常に報告・連絡・相談が出来る環境作りを心掛け、月に1回のミーティングにより、情報を共有することで、ヘルパーのスキルアップ、意識向上に繋がっている。 ②毎月15日までに利用者への請求書、法定代理受領書を滞ることなく発送できた。 ③利用者の状況変化等その都度、ケアマネージャー・ケアプランナーに報告することにより、利用者の情報を共有することができた。 ④スマホ・システムの導入により早めの情報収集と介護員間の情報共有が出来、サービス提供に共通性が出てきた。
課題	・事業所加算Ⅱを取得するために、個々のスキルを上げる事も必要 ・報告・連絡・相談を迅速に行うことで他事業所との連携、サービスの協調性、統一性が出て自立支援に繋がる
↓	
次年度への具体的な取り組み内容	・月に1回のミーティング時に研修等を行いスキルアップを図る ・個別研修計画に基づいた研修に取り組み、個々のスキルアップを図る ・報告・連絡・相談を迅速に行い、情報共有することで、サービスの統一性を図る ・サービスの質の向上に努め、ケアマネージャーやプランナーとの連携を図ることで、新規獲得に繋がるようにする

令和3年度 事業報告

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	居宅介護支援
施設の名称	おたすけ・ぴあっと
施設の所在地	長野市大字高田1134-1 ぴあ・ぷらざ

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 9:00～18:00 (年末年始を除く)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長 1名 介護支援専門員 2名
利用対象者	・ 40歳以上65歳未満の特定疾病者 ・ 65歳以上の高齢者
利用者の状況	70件
送迎	なし
車輛の利用状況	ダイハツミライース 1台(リース車)
利用の料金・費用	本人負担なし(提供地域を超える場合は交通費(定額)負担あり)
具体的な事業内容	<p>事業目的 障害者及び高齢者の、生活に係る様々な問題の相談に対し包括的な支援を行う。</p> <p>事業内容 40歳以上65歳未満で特定疾病対象者の2号被保険者と65歳以上の要介護者のケアプランを作成し、サービスの調整や担当者会議の開催、給付管理、障害プランから介護保険プランへの移行支援、定期的なモニタリング等を実施する。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・障害支援から介護保険への移行にあたり、法人内で連携を取り、スムーズに行うことが出来た。 ・1人ひとりの利用者丁寧に向かいあうことで信頼関係を築くことが出来た。 ・前年度と比較して利用者数を伸ばすことが出来た。 ・滞りなく事業所更新を行うことが出来た。 ・実地指導を通じ、改めて運営基準の見直しを行うことが出来た。 ・経費が売上げを上回っている。 ・障害福祉サービスから介護保険への移行や障害サービスと介護保険を兼用する場合に、制度の理解や認識が不足していることで、利用者にも不利益が生じるリスクがある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・経費が売上を上回っている。 ・障害福祉サービスから介護保険への移行や障害サービスと介護保険を兼用しているケースの場合に、制度の理解や認識が不足していることで、利用者にも不利益が生じるリスクがある。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト意識を常にもつ。 ・施設入所等で減員となる状況を事前に把握し、利用者の確保に努める。 ・利用者各人のニーズをくみ取るとともに、多岐にわたる相談に対し適切な提案を行う。 ・相談援助の知識と能力向上のために、研修や学習会に積極的に参加し専門性を高める。 ・保健・医療・福祉・行政機関等、多職種との連携の重要性を理解し、円滑に支援ができる関係性を築く。 ・障害から介護保険にスムーズな移行ができるよう、早めの連携で課題抽出を行い、対策を講じる。 ・障害者支援の法人である強みを活かしたアプローチで、定期的に営業を行い信頼関係を築く。 ・施設との信頼関係を築き、利用者の状況に応じ入所支援が円滑に行えるように心がける。

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	共同生活援助・短期入所
施設の名称	三津和園
施設の所在地	長野市信州新町山上条1561-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	24H 365日
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者 所長：1名(のんびりほ～む兼務) サービス管理責任者：1名 生活支援員・世話人：6名 宿直：3名
利用対象者	障がいの種別問わず
利用者の状況	2名(身体) 5名(知的)
送迎	有り:利用者買い物・通院・通所先・旅行等、送迎実施(燃料代実費利用者負担)
車輛の利用状況	保有車両ノア1台(リース)
利用の料金・費用	共同生活援助費、食材費、水光熱費、日用品など、月額 55,000円～65,000円
短期入所	食材費:朝330円 昼450円 夕450円 水光熱費250円/日 個人消耗品自費
具体的な事業内容	生活の場としての支援を提供する事業 1、家事等の日常生活の支援 2、食事、排泄、入浴等の支援 3、健康管理、金銭管理の援助 4、日常生活における相談 5、緊急時の対応 6、日中活動にかかわる他の事業所との連絡、調整
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴や排泄および洗濯・掃除などの日常生活の支援を行い利用者が安定した日常生活が送れるよう支援を行った。 ・身体、精神面の急激な変化が多くみられるなかで、関係機関と連携して支援に取り組むことができた。 ・身体障害者に対し必要とされる受け入れと支援を行う事が出来た。 ・感染症予防対応策等、引き続き周知徹底出来た。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症対策の為、多くのニーズである余暇活動が不十分だった。 ・障がいに対する理解を今以上に深める。 ・コロナウイルス感染症予防対応策等の専門知識を今以上に身につけて行く。 ・職員の高齢化に課題が残る。
次年度への具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のミーティング等で定期的に個別支援計画の見直しや検討を行い、継続して周知徹底し支援の質に繋げる。 ・感染症や虐待防止等の専門知識などの研修を事業所内で行える機会を増やしていく。 ・感染症などの情報等収集し、休日の余暇支援を行う。

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	共同生活援助・短期入所
施設の名称	のんびりほ～む、のんびりほ～む・お2かい、のんびりほ～む・もも、のんびりほ～む・おとこぐみ、のんびりほ～む・さくらがおか
施設の所在地	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりほ～む、お2かい、もも 長野市稲葉2320番地1 ・おとこぐみ 長野市大字七瀬中町211番地15 ・さくらがおか 長野市高田941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	365日24H
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	管理者 所長：1名(三津和園兼務)、主任：1名(世話人兼務) サービス管理責任者：1名(世話人兼務)、1名 生活支援員・世話人：22名
利用対象者	障がいの種別問わず
利用者の状況	身体22名(精神・知的重複含む)、知的6名、精神2名
送迎	緊急時等
車輛の利用状況	日本財団の助成を受け整備。(軽車両1台)
利用の料金・費用	共同生活援助費、家賃、食費、水光熱費、日用品など、月額 65,000円から75,000円 短期入所: 食材費: 朝300円 昼430円 夕450円 水光熱費250円/日 個人消耗品自費
具体的な事業内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 共同生活を営むべき住居に入居している利用者に対し、日常生活において行われる入浴、排泄及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活等に関する相談及び助言、通所先その他関係機関との連絡、その他必要な日常生活上の支援 (2) 個別支援計画に基づき、利用者が安心して有意義な生活を送れる為の支援 (3) 利用者の金銭の取り扱い (4) 地域の住民との交流
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安心して有意義な生活を送れる様、利用者のニーズ等を職員全員が把握出来ることと、日々の変化等の申し送りを周知徹底した。 ・新型コロナウイルス感染症予防対応策等を引き続き周知徹底出来た。関係機関との連携が密に行えたのと、環境整備が出来ている。 ・地域住民との交流に向け、職員がすすんで挨拶をする事。ゴミ出しなどマナーの徹底に努めることが出来た。 ・スタッフミーティングで虐待防止等の研修が毎月行えている。 ・虐待の事案に対し緊急入居の受け入れが出来た。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性職員の不足と男性職員の高齢化に課題が残る。 2. 精神、行動障害のある利用者に対して、職員の知識、理解が不足しているところが見受けられる。研修等で理解を引き続き深めていく必要がある。 3. 身体介護技術のさらなるスキルアップ。マニュアルの見直し。 4. 感染症予防、対応策等の専門知識を今以上に身につけていく。 5. 感染症禍でも、利用者様が安心安全で穏やかに暮らせる取り組みや利用者様の余暇活動。
次年度への具体的な取り組み内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月のミーティングの際、虐待防止等の研修も引き続き行い個々のスキルアップを強化していく。 2. 職員の介護技術力向上にむけ、具体的な内容が掲載されている資料などを基に研修を行って行く。マニュアルの見直しや修正を行い、サービスの均一化にも引き続き取り組む。 3. 感染症予防対応策に対しての専門知識研修を行える機会を増やしていく。

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	地域活動支援センターⅢ型
施設の名称	長野市地域活動支援センターⅢ型 つくし
施設の所在地	長野市信州新町山上条1561-1

2 事業報告

営業日及び営業時間	月～金曜日 8:30～16:30 (祝祭日、盆、年末年始を除く)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長 : 1名 指導員 : 2名
利用対象者	身体・知的・精神障害者
利用者の状況	現在 6名
送迎	無 (有) (現在 月～金 水防会館まで)
車輛の利用状況	2台(軽バン・軽トラ)所有 送迎、農機具運搬 等
利用の料金・費用	利用の料金は無料 実費負担有り 工賃有り
利用者の工賃	月平均 2,500円
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老人ホーム等の清掃活動(火・水・木) ・農業(山菜栽培 露地物野菜 育成等) ・田畑の草刈り管理・ガラスハウスを利用した 薪束作り ・栽培した野菜等の販売、加工品(実費徴収)の配達 ・おやきの粉の計り分け(委託作業) ・歳末たすけあい共同募金 特別配分による焼き芋機での焼き物販売 乾燥機による椎茸販売 ・歳末たすけあい共同募金 特別配分によるパソコンソフト イラストレーター等 ・パソコン印刷(名刺 年賀はがき ラベル 分館報 等) ・事業所内外のイベント(花見や食事会 販売所視察 等)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期は仕事数が少ないが単純な作業で利用者全員で行うことができた。 ・マキ束作りは、ガラスハウスを利用でき天候に左右されず効率よくできた。 ・農作物は天気の影響や人材不足があり、収穫、品質等余り良くなかった。 ・利用者の高齢化や体調・都合により利用者の減少となった。 ・今年は、寒暖の差があったが利用者、職員の健康管理等に、気をつけることができた。 ・利用者の作業能力が下がって来ていて職員負担が多くなった。 ・農作物の収穫など、利用者と一緒に過ごすことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が出来ない利用者の増加傾向があり、作業内容等の検討が必要。 ・パソコン印刷のセールス、業務を増やす営業や宣伝が必要。 ・販売の幅を広げるためのオリジナル商品の開発及び販売方法の検討。 ・利用者の増減、作業意欲の減退により、作業人員の確保が難しい。 ・事業が分担になるので職員の配置(職員の各自休暇の場合の対応策の検討)。 ・農作物の販売方法(施設等への販売と定期的な販売場所の拡充)。 ・経費が掛かる物に関しての節約計画、および実行。 ・利用者の通所(特に作業が出来る)を増やす。 ・利用者の高齢化に伴う施設利用者の減少。
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜等は栽培するが、販売というより事業所のイベントを主に使用する。 ・繁忙期の人員確保を明確にし、予算管理も含め計画する。 ・利用者の個別支援計画を明確にし、計画及び見直しを行う。 ・パソコン印刷業務の営業を積極的に行う又、新規作業の検討を更に行う。 ・経費の管理を徹底し、節約計画を立て、実行する。 ・近隣の保健師さんや相談員さんと連携を深め新規の利用者を増やす。 ・障がい者のみではなく、高齢者の利用も受け入れる。 ・定期的なイベントを開催し、作業だけではなく利用者の確保を目指す。

R3年度 月別平均工賃額 一覧表

つくし

	利用者工賃 合計金額	本人支給金 合計金額	合計	人数	1人当たり 平均額
4月	7,850	3,663	11,513	4	2,878
5月	7,500	3,688	11,188	4	2,797
6月	2,400	2,665	5,065	4	1,266
7月	8,050	3,219	11,269	5	2,254
8月	2,450	3,344	5,794	4	1,449
9月	3,975	3,906	7,881	4	1,970
10月	4,562	3,330	7,892	4	1,973
11月	19,939	4,439	24,378	4	6,095
12月	13,513	2,814	16,327	4	4,082
1月	5,600	2,964	8,564	4	2,141
2月	5,860	3,249	9,109	4	2,277
3月	8,043	3,560	11,603	4	2,901
合計	89,742	40,841	130,583	年間平均額	2,674

R3年度 長野市地域活動支援センターⅢ型 つくし 利用者状況

		令和3年						令和3年						
	年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計日数
	開設日数	21	18	21	20	19	20	21	20	20	18	18	22	238
	氏名/通所日数													
1		13	11	13	12	12	12	13	12	12	11	11	14	146
2		11	11	12	11	8	10	11	11	11	10	10	12	128
3														0
4		21	8	21	20	19	19	21	20	20	17	16	22	224
5					5									5
6								1	1				2	4
7											3			3
8														0
9														0
10														0
11														
	月利用者合計	45	30	46	48	39	41	46	44	43	41	37	50	
	(敬称略)	総利用者数												510

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	就労継続B型事業所
施設の名称	ぐーと
施設の所在地	長野市稲里町下米鉋字北河原1315-2

2 事業報告

営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 9:00～15:30 (利用時間)
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	所長兼サービス管理責任者 1名 食品衛生管理者 1名 生活支援員 2名 職業支援員 2名
利用対象者	身体障害・知的障害・精神障害
利用者の状況	就労継続B型 身体 3名・知的 10名・精神 7名
送迎	あり
車輛の利用状況	送迎車 ノア・セレナ(リフト車)・ハイゼット(リフト車)
利用の料金・費用	障害者総合支援法に基づく利用料
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。日中において生活リズムや食事等の栄養バランスの指導、生活等に関する相談及び助言その他の必要な生活上の支援を行う。 ・お菓子、デザート製造販売、外注箱折り、施設外就労。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・給付費が令和2年度 17,405,027円 → R3年度 18,908,812円 利用者は4減2増であったが現状落ち着いている。 ・外販での販売先(市役所、福祉事業所、保険会社等)に於いても営業を通じ集客に繋がり新規外販先増え、店売以外でもリピーターが増えている。 ・季節商品を定期的に販売することで、飽きのこない商品作りをした。 ・軽作業に関しては箱折の他に段ボールの組立を新たに行い箱折の少ない時期にもバランスよく対応できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外販先が固定化されてきているが、安定した売り上げが見込める新規の外販先を増やす必要がある。 ・飽きの来ない商品展開をする事で固定客のリピート率を上げていく。 ・箱折等の作業はある程度安定的にあるものの単価が安く思うように工賃アップに繋がっていない。 ・ギリギリの職員数で運営しているため急な職員の休みに対応しきれない。 ・職員のコストに対する意識と障がい特性に対する理解とスキルアップ。
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容の多様化、利用者のニーズに合わせた支援を行い、幅広く利用者を受け入れしていく。 ・職員の支援の向上を目指し、担当制を取ることで、より利用者に向き合う支援を行う。 ・地域の優良企業と関係を構築し、連携を取りながら工賃アップを目指す。 ・製造数を調整することで、ロスを少なくし経費削減に努める。 ・短サイクルでの新商品開発を行い飽きの来ない販売に努める。 ・新規外販先の営業活動の継続、養護学校、相談支援事業所等、利用者確保に向け実習生受け入れ等連携を図っていく。

R3年度 月別平均工賃額 一覧表

ごと

	利用者工賃 合計金額	人数	1人当たり 平均額
4月	79,600	19	4,189
5月	69,601	22	3,164
6月	74,168	21	3,532
7月	66,458	20	3,323
8月	62,043	18	3,447
9月	63,516	19	3,343
10月	67,162	19	3,535
11月	60,956	16	3,810
12月	59,829	17	3,519
1月	57,109	18	3,173
2月	58,252	18	3,236
3月	73,900	19	3,889
合計	792,594	年間平均額	3,513

令和3年度 事業報告書

1 事業名・施設の名称及び所在地

事業名	研修事業
施設の名称	共同研修センター
施設の所在地	長野県長野市大字高田941-5

2 事業報告

営業日及び営業時間	不定期
職員配置(職名・氏名) 責任者名(役職)	センター長 1名 事務員 1名
利用対象者	一般、施設職員関係者等
利用者の状況	雇用保険受給対象求職者及び雇用保険を受給できない求職者で、職業訓練を受講する方
送迎	無
車輛の利用状況	無
利用の料金・費用	特に定めなし
具体的な事業内容	<p>《職業訓練》 雇用保険を受給している求職者及び、雇用保険を受給できない求職者向けの職業訓練の委託を受けて介護職員を養成し、介護現場への就職に導く研修事業を運営している。</p> <p>1. 公共職業訓練(長野技術専門学校からの受託) ①令和3年4月28日～8月27日(委託元:長野県技術専門学校) 訓練期間 4カ月 NND-01介護職員養成科 受講者8名、修了者8名 訓練内容:介護職員初任者研修、長野市移動支援サービス従業者、同行援護従業者(一般課程)、就職支援、ビジネスマナー、キャリアコンサルタント、手話講座、点字講座、傾聴コミュニケーション、アサーション、赤十字救急法、ピアカウンセリング等で、特色として介護実習を1カ月実施して、実践力を身に着け現場での即戦力となる人材育成カリキュラムであった。</p> <p>②令和3年10月21日～令和4年1月20日(委託元:長野県技術専門学校) 訓練期間3カ月 NN-14介護職員養成科 受講者11名、修了者11名 訓練内容:①と同様であるが、介護実習は5日間で通常の3カ月での訓練</p> <p>③職業訓練講師交流会 年に1回、職業訓練に携わった外部講師に参加いただき情報交換の実施を行っているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し開催を中止した。事務局より電話及びメールでの予防対策、授業の進め方について共有した。</p> <p>《卒業訓練生の掘り起こし》 信濃の星で訓練を受講した卒業生に現状のヒアリングを実施し、求職中及び転職希望者に向けて、法人内就職への促し。</p>
評価	<p>1. 職業訓練 2回の訓練で全員が途中退校することなく修了に結びつけ、訓練委託金は1回目:人数×6万円×4カ月分、2回目:人数×5万円×3カ月分を入手した。又、就職率は第1回87.5%、第2回は81.8%を達成した。信濃の星への就職者は1回目は3名、うち2名(ぐーと、のんびりほ～む)はR4年5月現在も継続勤務中。2回目は3名(びあっと、のんびりほ～む、おたすけ訪問)就職に繋げることが出来た。</p> <p>2. 実習受入れ先確認書提出による訓練委託金アップ 介護実習受入れ先に、訓練生の実習評価の提出を頂くことで、1人1万円の訓練委託金アップに繋がった。(第2回目訓練で実施:訪問による依頼・説明)</p> <p>3. 元訓練生の掘り起こし 他法人で勤務していた男性職員1名をぐーとへの転職に成功。(令和3年4月)</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練募集チラシの変更(マンネリ化を一新) ・新しい訓練科目の検討(プロポーザルでの評価獲得) ・職業訓練が開講されない期間の研修室利用方法(利益となる方法) ・介護職員初任者研修の法人内講師の育成(外部講師の高齢化及び職員のスキルアップを図る) ・新規実習受入れ先の確保(コロナ禍で受入れ先が減少している)
次年度への具体的な 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・募集チラシ表面の人物写真をイラスト又は現役職員に変更する等のデザイン変更 ・職業訓練が開講されない期間における研修室利用方の1つとして、「働く人の学び直しの場拡充支援事業補助金」事業参加への検討(長野県産業労働部主催) ・卒業した訓練生の掘り出しの継続(求職中、転職希望者に向けた情報支援) ・法人内で、介護職員初任者研修の講師となる人材の選出と可能な範囲で講師助手として訓練に参加し、外部講師の指導により、スキルアップを図る。 ・新規実習先の確保に向け、情報収集と開拓。また、従来の実習受入れ先との情報交換等での更なる信頼関係の構築